



2025年6月期

決算説明資料

2025年 8月13日

証券コード 3446

株式会社ジェイテックコーポレーション

<https://j-tec.co.jp>



Photo Akira Ito / aifoto

Optical

Device Development

Life Science

ESCO, Ltd.

01 ビジネスセグメント

02 2025/6期 業績

03 2026/6期 業績見通し

04 Innovation2030の実現に向けて

05 会社紹介

INDEX

01

ビジネスセグメント



INDEX

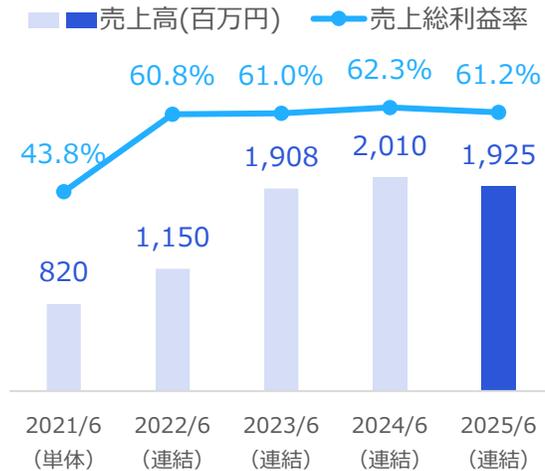
02

2025/ 6 期業績

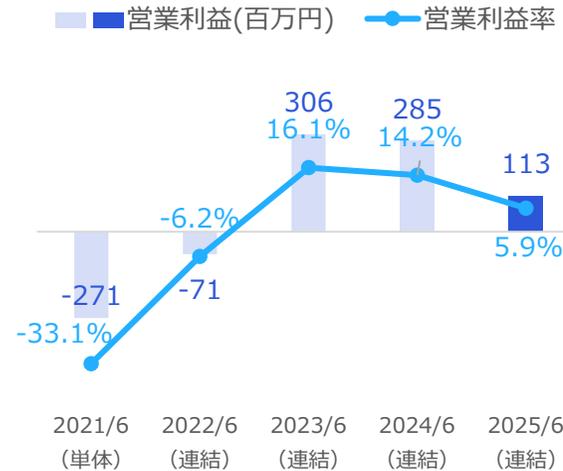
2025/6期 決算：ハイライト

- 前年度比で減収減益
- 販管費の増加により営業利益率は前年度比8.3%悪化
- ROEは前年度比5.5%低下

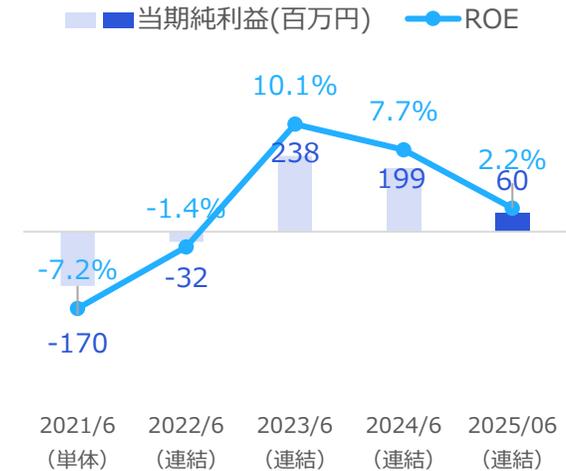
売上高と売上総利益率



営業利益と営業利益率



当期純利益



2025/6期 決算：損益状況

- 前年度比で売上高は4.2%減少
- 売上高減少に加え、生産性向上や研究開発促進を目的とした人件費増によって各種利益は前年度比で低下

(百万円)

	損益状況 (累計)			
	2024/6期	2025/6期	前年度比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	2,010	1,925	-84	-4.2%
売上総利益	1,252	1,178	-73	-5.9%
売上総利益率	62.3%	61.2%	-1.1pts	
営業利益	285	113	-172	-60.2%
営業利益率	14.2%	5.9%	-8.3pts	
経常利益	310	102	-208	-67.2%
経常利益率	15.5%	5.3%	-10.2pts	
税引前利益	284	101	-183	-64.4%
当期純利益	199	60	-139	-69.8%
当期純利益率	9.9%	3.1%	-6.8pts	

2025/6期 決算：四半期ごとの業績推移

- 4Qは前年同期比で減収減益、売上総利益率は低下

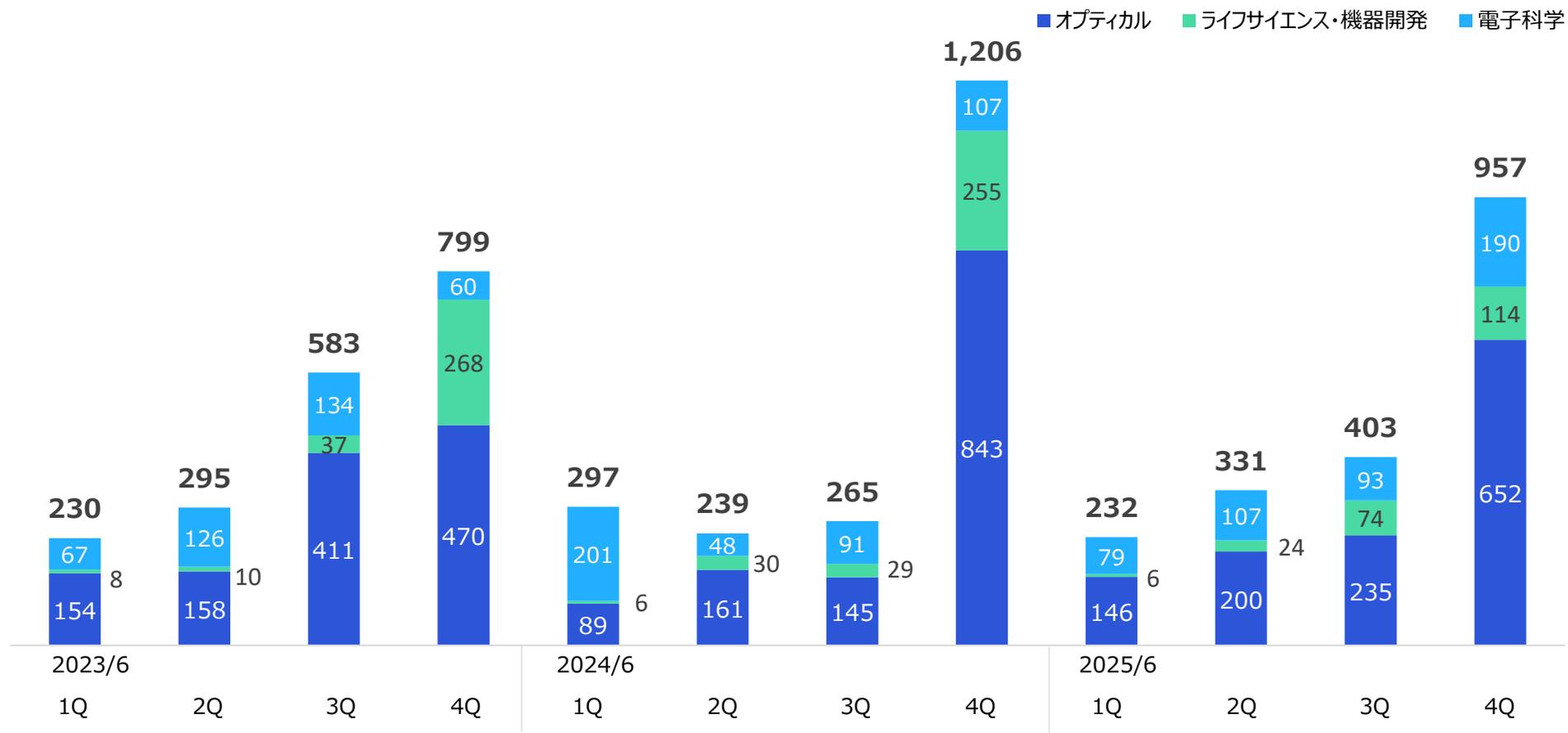
(百万円)

	2024/6期				2025/6期							
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	3Q/4Q比		前4Q/4Q比	
									増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	297	239	265	1,206	232	331	403	957	554	137.5%	-248	-20.6%
売上総利益	156	134	150	810	153	172	247	604	356	144.1%	-206	-25.4%
売上総利益率	52.5%	56.2%	56.7%	67.2%	65.9%	52.1%	61.4%	63.1%	+1.7pts		-4.1pts	
営業利益	-93	-115	-78	573	-132	-81	-28	356	384	-	-216	-37.9%
営業利益率	-31.4%	-48.1%	-29.4%	47.5%	-57.1%	-24.5%	-7.0%	37.2%	+44.2pts		-10.3pts	
経常利益	-93	-117	-58	580	-147	-81	-28	359	388	-	-220	-38.1%
経常利益率	-31.4%	-48.9%	-21.9%	48.1%	-63.3%	-24.4%	-7.2%	37.5%	+44.7pts		-10.6pts	
税引前四半期利益	-93	-117	-61	557	-147	-81	-29	359	388	-	-198	-35.5%
四半期利益	-74	-84	-47	405	-105	-62	-25	254	280	-	-151	-37.3%
四半期利益率	-25.1%	-35.0%	-17.8%	33.6%	-45.4%	-19.0%	-6.4%	26.6%	+32.9pts		-7.0pts	

2025/6期 決算：事業セグメント別

- オプティカルの売上高は前年度比0.5%の微減
- ライフサイエンス・機器開発も下期偏重を見込むものの成約に至らず、前年度比31.5%の減収
- 電子科学は主力装置売上が順調に推移し、前年度比5.1%の増収

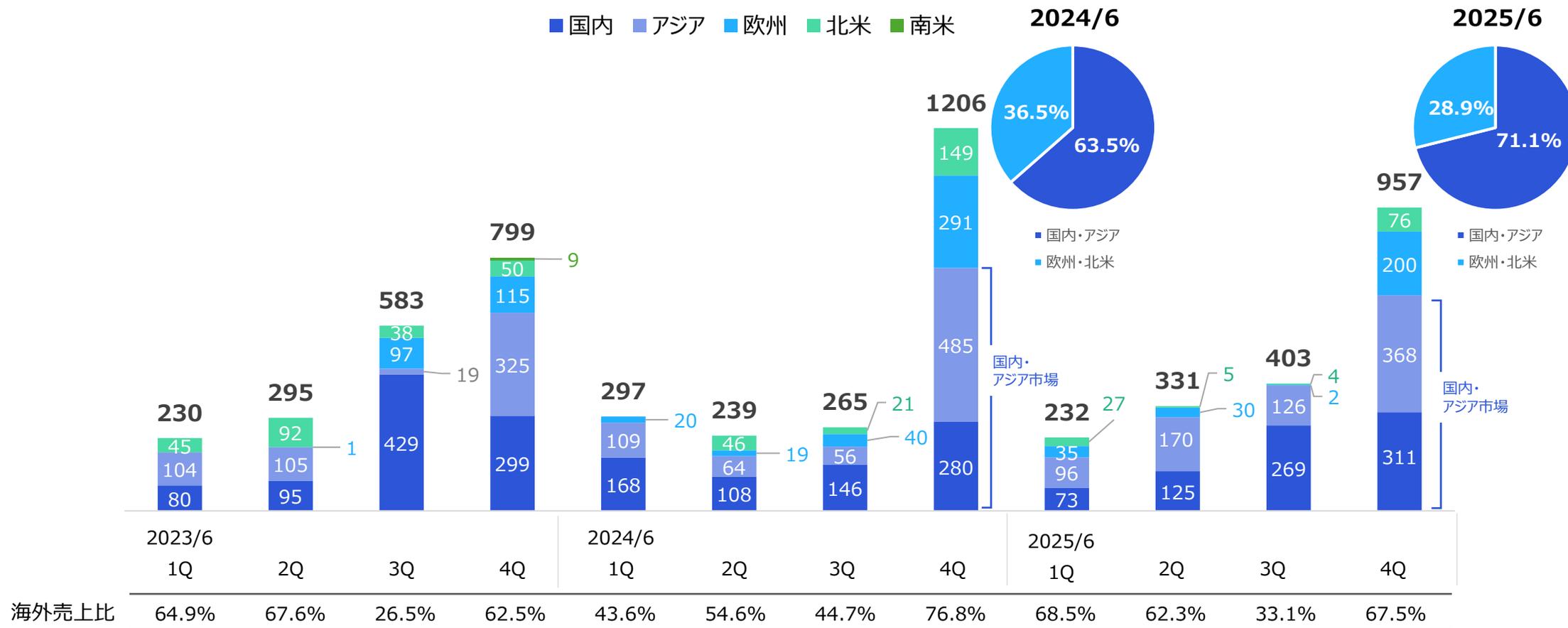
四半期売上高 事業セグメント別 (百万円)



2025/6期 決算：地域別

- 国内を含むアジア市場が前年度63.5%から71.1%と増加し、今後も拡大を見込む

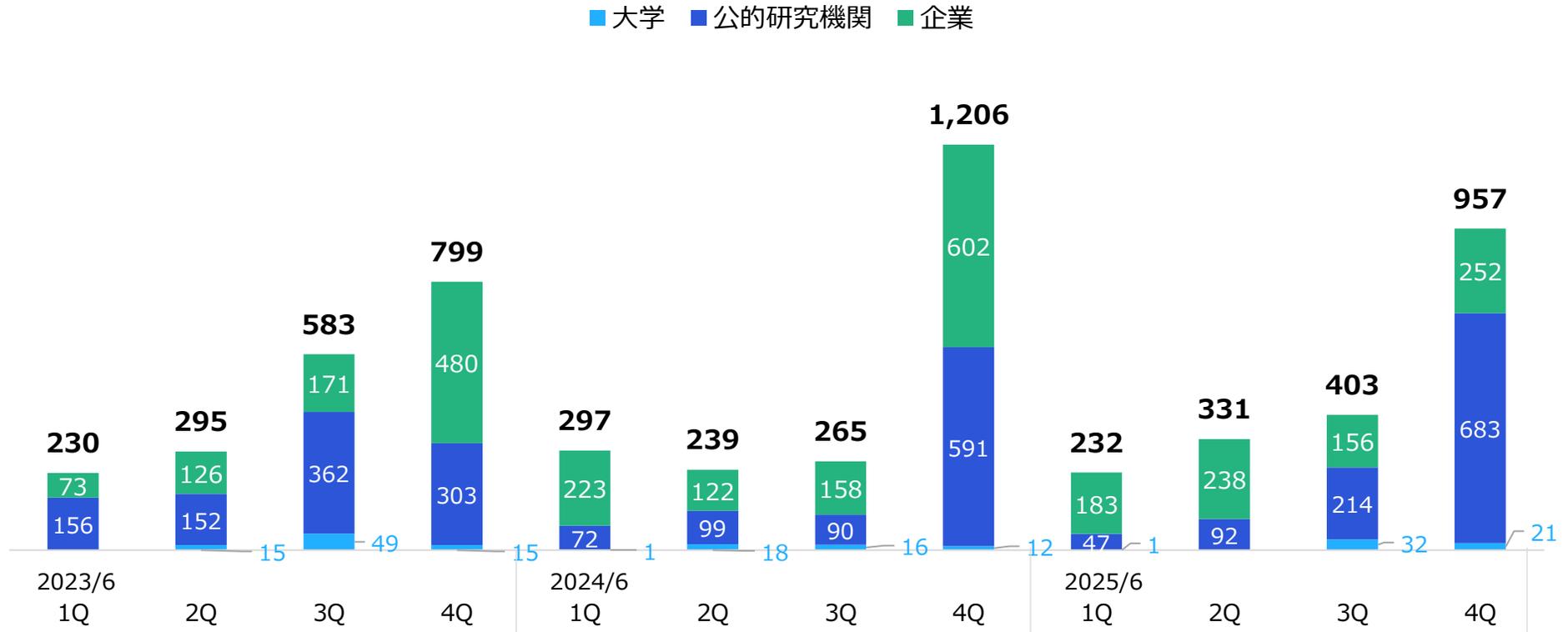
四半期売上高 地域（出荷先）別 (百万円)



2025/6期 決算：顧客属性別

- オプティカル事業が売上をけん引し、依然としてB to G（大学＋公的研究機関）が主体

四半期売上高 顧客属性別 (百万円)



2025/6期 決算：投資・キャッシュフロー

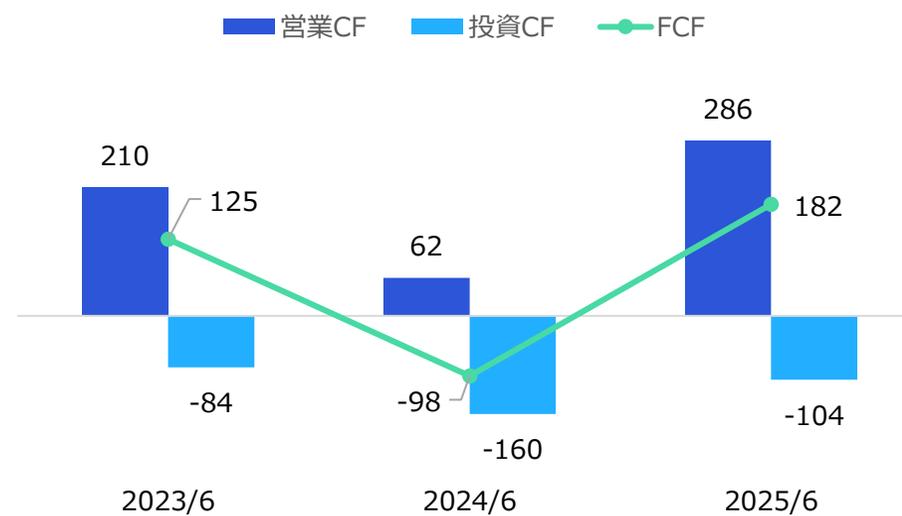
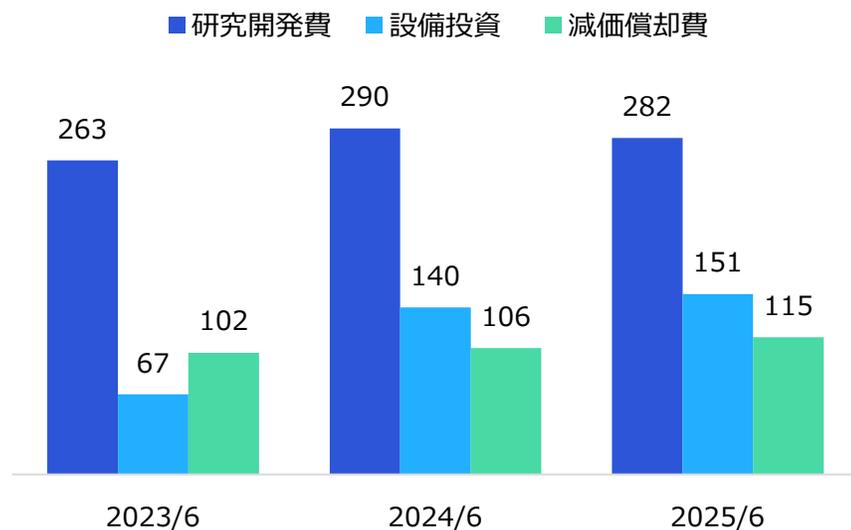
- 生産性向上のための設備投資に関しては増加、研究開発は昨年度同様に注力
- 売上債権の減少による収入増によってFCFは大幅プラス

投資等 (百万円)

	2023/6期	2024/6月期	2025/6期
研究開発費	263	290	282
売上高比率	13.8%	14.4%	14.7%
設備投資	67	140	151
減価償却費	102	106	115

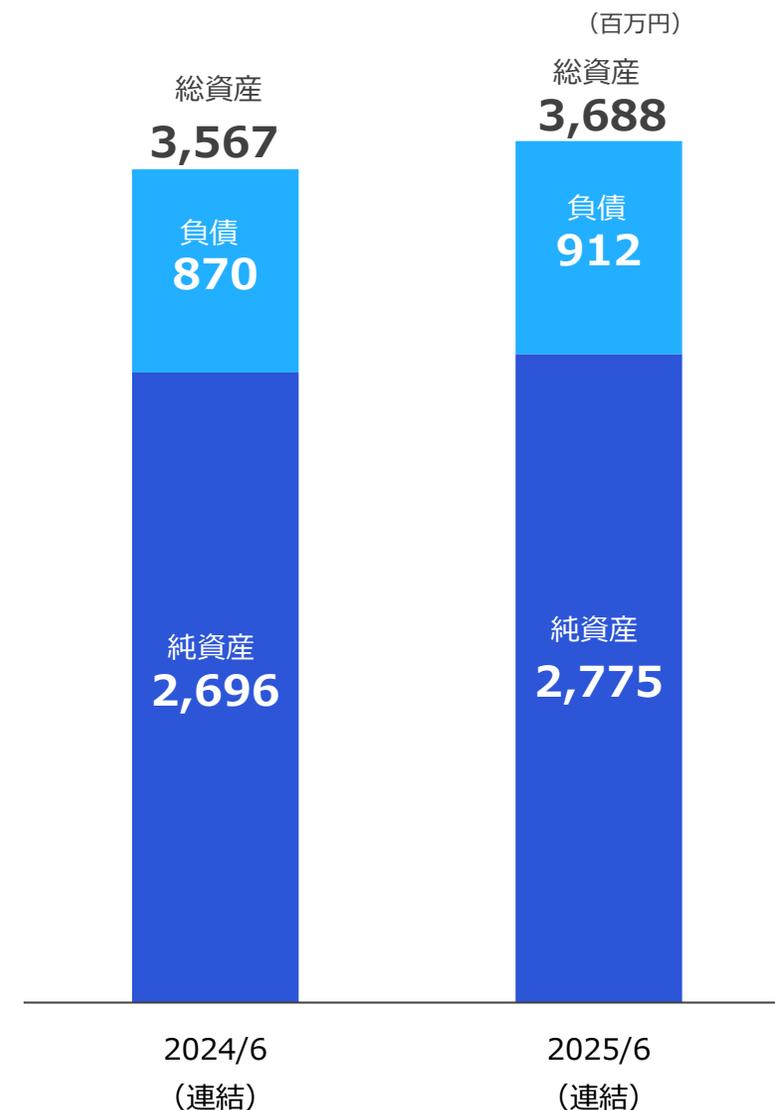
キャッシュフロー (百万円)

	2023/6期	2024/6期	2025/6期
営業CF	210	62	286
投資CF	-84	-160	-104
FCF	125	-98	182



2025/6期 決算：財務の状況

				(百万円)		
		2024/6期 (連結)		2025/6期 (連結)		増減
資産 の 部	流動資産	1,815	50.9%	1,939	52.6%	123
	(現預金)	(610)	(17.1%)	(712)	(19.3%)	(102)
	固定資産	1,751	49.1%	1,748	47.4%	-3
	(有形固定資産)	(1,339)	(37.5%)	(1,377)	(37.4%)	(38)
	資産合計	3,567	100.0%	3,688	100.0%	120
負債 の 部	流動負債	413	11.6%	493	13.4%	79
	固定負債	457	12.8%	419	11.4%	-37
	負債合計	870	24.4%	912	24.7%	41
純 資 産 の 部	株主資本	2,696	75.6%	2,775	75.3%	78
	(資本金)	(837)	(23.5%)	(847)	(23.0%)	(9)
	(資本剰余金)	(797)	(22.4%)	(807)	(21.9%)	(9)
	(利益剰余金)	(1,061)	(29.8%)	(1,121)	(30.4%)	(60)
	純資産合計	2,696	75.6%	2,775	75.3%	78
負債純資産合計		3,567	100.0%	3,688	100.0%	120



INDEX

03

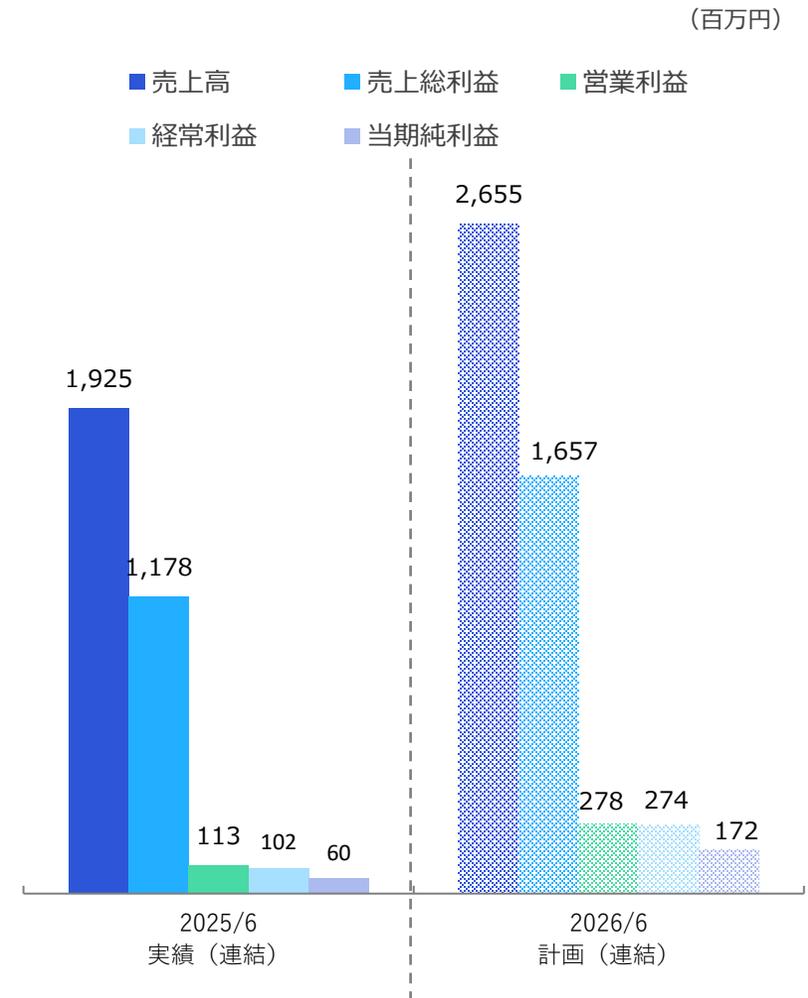
2026/6期 業績見通し

2026/6期 業績見通し

- 売上高は前年度比37.9%増を見込む、増収増益見通し
- 各事業とも各種利益率は大幅改善

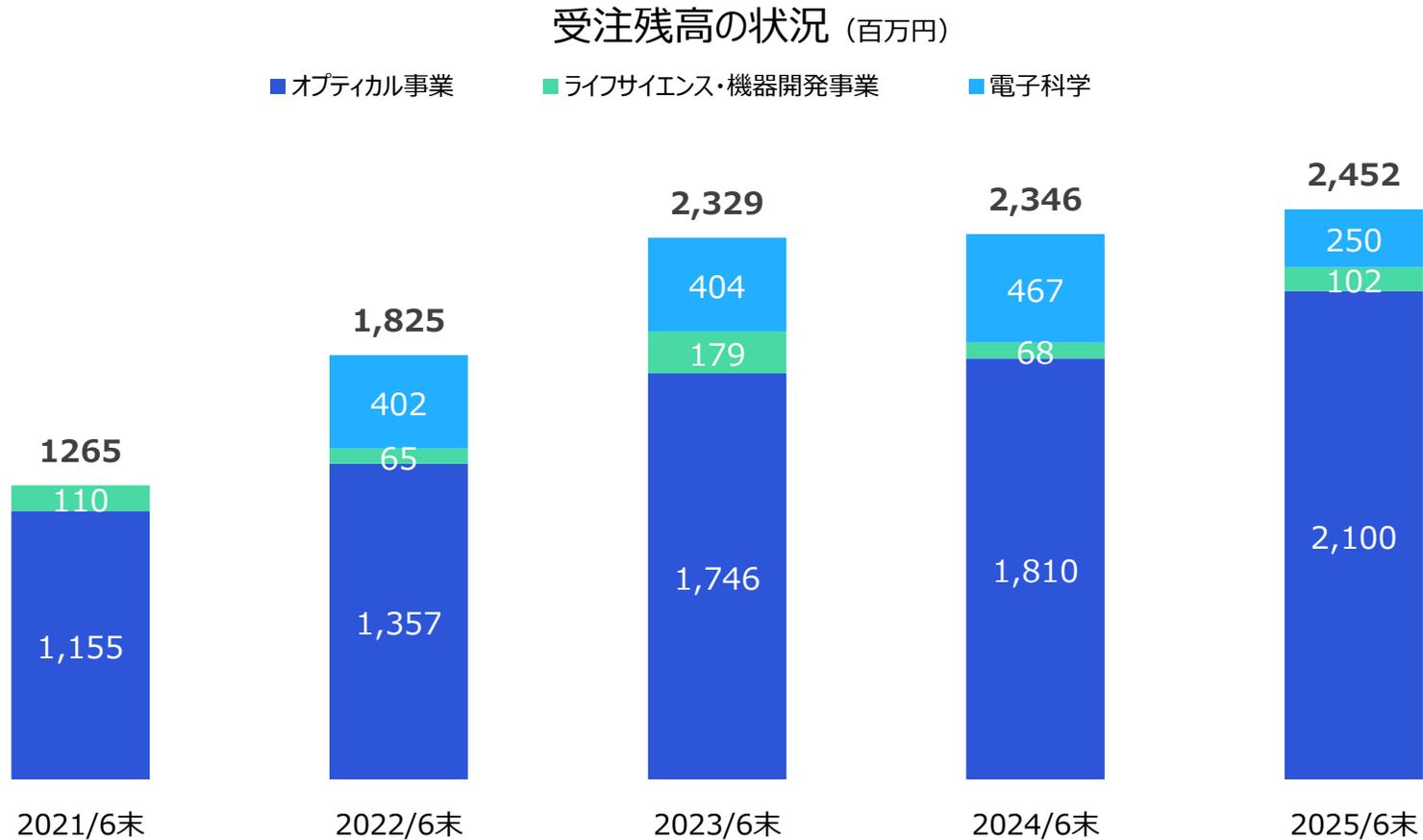
(百万円)

	2025/6期 実績 (連結)	2026/6期 計画 (連結)	前年度比
売上高	1,925	2,655	137.9%
売上総利益	1,178	1,657	140.6%
売上総利益率	61.2%	62.4%	
営業利益	113	278	244.9%
営業利益率	5.9%	10.5%	
経常利益	102	274	268.8%
経常利益率	5.3%	10.3%	
当期純利益	60	172	285.9%
当期純利益率	3.1%	6.5%	



2025/6期 受注残高

- アジア市場の旺盛な受注を背景にオプティカルの受注残が積み上がり、来期以降の収益に大きく貢献



※受注確定分と受注確度の高い案件の合計
※電子科学については2025/6末時点の数字

2026/6期 業績見通し：セグメント別見通しのサマリー、計画のポイント

(百万円)

		2025/6期 実績 (連結)	2026/6期 計画 (連結)	前年度比
オプティカル	売上高	1,234	1,650	133.7%
	セグメント利益	526	725	137.8%
	セグメント利益率	42.7%	44.0%	
機器開発	売上高	130	404	308.6%
	セグメント利益	-13	48	—
	セグメント利益率	-10.1%	12.0%	
ライフサイエンス	売上高	89	91	101.5%
	セグメント利益	-38	3	—
	セグメント利益率	-43.2%	4.3%	
電子科学	売上高	471	510	108.2%
	セグメント利益	41	45	111.3%
	セグメント利益率	8.7%	9.0%	
調整額	売上高	0	—	
	セグメント利益	-401	-544	
合計	売上高	1,925	2,655	137.9%
	営業利益	113	278	244.9%
	営業利益率	5.9%	10.5%	

オプティカル事業

- アジア市場（中国、台湾、韓国）の受注が旺盛
- 日本や欧米にある複数の先端放射光施設がアップグレードを備える
- 半導体向け高精度光学部品の受注数増加

機器開発事業

- プラズマCVM：水晶デバイス用ウエハ加工装置の小型機から大型自動機への展開と潜在市場の掘り起こし
- PAP：プラズマ援用研磨法によるダイヤモンド基板の高速・高精度加工プロセスの確立と装置化の加速によるダイヤモンド加工市場への参入
- ECMP：イオン伝導性物質を用いた電気化学機械研磨法によるSiCウエハの高速研磨プロセスの確立とその装置化
- CARE：研磨パッドの長寿命化による装置の実用化の検討

ライフサイエンス事業

- 再生医療・創薬分野における働き方改革に寄与する「自動細胞培養装置」の市場拡大と「大型細胞培養自動化システム」の積極的な市場展開
- 研究機関や他企業との共同研究により開発に成功した幹細胞治療向けの幹細胞分離装置による脳梗塞治療および認知症治療（自由診療）への展開
- 独自の培養技術「CELLFLOAT」を用いた軟骨の再生医療は、現在東京大学等と研究開発を進め、2025年度から医師主導治験を開始

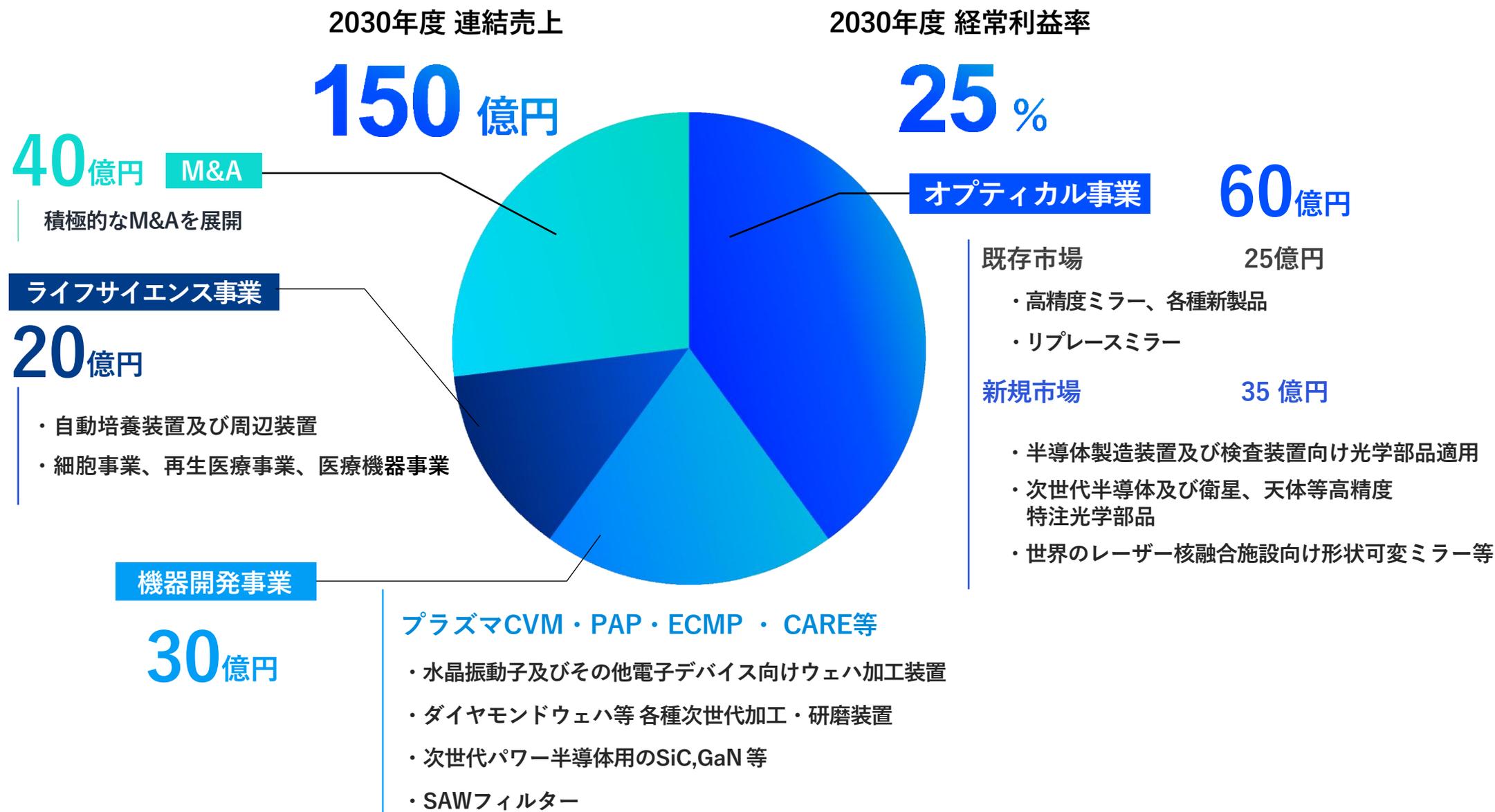
電子科学

- AI技術に必要な、高度な半導体デバイスの生産・開発に対応した赤外線加熱型昇温脱離分析装置「ESCO-TDS1200 II IR」の受注増大に期待、今年度上半期には、高性能な温度測定機能を装備した新製品を販売開始
- 水素検出専用の分析装置「ESCO-TDS600 IR H2」や「ESCO-TDS-100 Cryo H2」を今年度に販売開始
- 中国、米国、欧州の新市場開拓を行い、事業の拡大を図る

Innovation2030 の実現に向けて

長期成長戦略「Innovation2030」は、これまでのニッチトップ戦略で培った独自技術を、半導体分野のような大きな市場や、これから成長が見込まれる再生医療分野に適用・展開するための施策

Innovation2030の売上目標



現在

Phase 01
成長のための
土台作り

Phase 02
成長の推進

Phase 03
目指す姿を実現

土台

放射光用ミラーの
新製品展開

市場規模 240億円

現状の進捗

放射光用ミラー新製品の販売に注力

- ・回転体ミラー ・形状可変ミラー
- ・X線用結晶部品 など

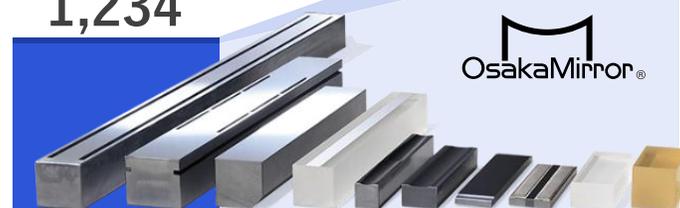
産学連携による半導体関連光学部品の研究開発に注力

【独自技術】ミラー加工計測装置



売上 (百万円)

1,234



2025/6

成長

半導体関連光学部品の
開発・展開

市場規模 1,900億円



高精度レンズ

窓材

2,200

B to B
半導体関連

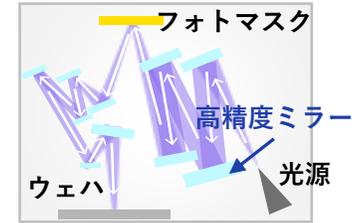
B to G
放射光用
ミラー

2028/6

目指す姿

半導体関連光学部品の拡販
(高精度ミラー)

市場規模 5,000億円



EUV露光装置の概要

6,000

B to B
半導体関連

3,500 (百万円)

- ・半導体製造装置及び検査装置向け光学部品適用
- ・次世代半導体及び衛星、天体等高精度特注光学部品
- ・世界のレーザー核融合施設向け形状可変ミラー等

B to G
放射光用
ミラー

2,500 (百万円)

高精度ミラー・各種新製品
リプレースミラー

2031/6

Business Expansion
Core Business

現在

Phase 01
成長のための
土台作り

Phase 02
成長の推進

Phase 03
目指す姿を実現

土台

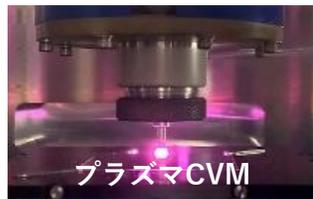
プラズマCVM装置、PAP装置、
ECMP装置の早期売上形成

成長

半導体市場へタイムリーに参入
パワー半導体基板向け各種研磨装置の販売

目指す姿

第二の事業の柱に成長
次世代半導体や化合物半導体ウェハ向けに、加工・研磨装置が本格導入、大きく売上貢献



プラズマCVM・PAP・ECMP・CAREは、それぞれ大学発の独自の精密加工・研磨技術であり、実用化を推進し、早期市場導入を目指しています

現状の進捗

プラズマCVM：国内外で水晶振動子ウェハ加工装置として注力

PAP：ダイヤモンドウェハ等の研磨試作向けの装置として複数納入

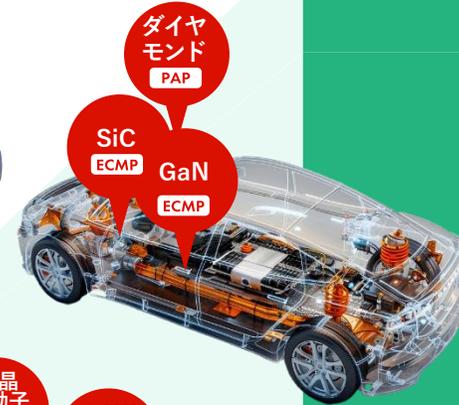
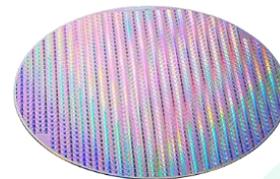
ECMP/CARE：半導体メーカー等からの試作評価が順調に進展

売上（百万円）

130
PAP
プラズマCVM
2025/6

720
PAP
ECMP
プラズマCVM
2028/6

3,000
PAP
ECMP
CARE 等
プラズマCVM
2031/6



半導体研磨装置市場

2024年
0.5兆円

EV, AI
5G・6Gの普及
年々拡大

2031年
2.3兆円

- ・水晶振動子及び
その他電子デバイス向ウェハ
加工装置
- ・ダイヤモンドウェハ等 各種
次世代加工・研磨装置
- ・次世代パワー半導体用の
SiC, GaN 等
- ・SAWフィルター

市場規模：当社調べ

現在

Phase 01
成長のための
土台作り

Phase 02
成長の推進

Phase 03
目指す姿を実現

土台

労働人口減少で注目を浴びている自動細胞培養装置の販売拡大

MakCell
Compact Automatic Cell Culture Apparatus



労働人口減少



自動細胞培養装置
販売拡大

現状の進捗

大手製薬会社を中心に引き合いがある自動細胞培養装置の営業活動に注力

認知症の自由診療で使用する骨髄液分離装置の導入に向け、病院とアライアンスを構築中
軟骨再生治療に向けた研究開発推進中

売上 (百万円)

89

2025/6



大型自動細胞培養装置

成長

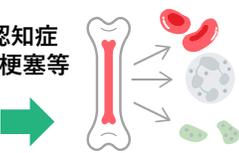
認知症・脳梗塞等治療に用いる骨髄液分離装置の開発、試験販売を推進

再生医療



患者増

認知症
脳梗塞等



骨髄液分離

骨髄液分離装置開発



幹細胞採取

幹細胞 (軟骨)

幹細胞を増やす

移植



耳介軟骨

新しい器官の再生

回転培養装置

軟骨再生治療に向けた研究開発推進中

280

自動培養装置
及び周辺装置

2028/6



軟骨再生用培養装置

目指す姿

医療・高齢問題に対応し、再生医療等製品(軟骨など)製造のための独自の細胞培養装置や、医療機器としての骨髄液分離装置の市場展開が加速

再生医療市場

2025年
3.8兆円

拡大

2030年
7.5兆円

医療現場

美容整形での
実用化へ

2,000

細胞事業
再生医療事業
医療機器

移植用軟骨製造培養技術の供給
骨髄液分離装置

自動培養装置
及び周辺装置

大型自動細胞培養装置
汎用型自動細胞培養装置

2031/6

市場規模：当社調べ

シナジー効果のある企業との相乗的な成長を目指す

現在

Phase 01
成長のための
土台作り

Phase 02
成長の推進

Phase 03
目指す姿を実現

土台 電子科学(株)の新規開拓市場で
主力製品の販売が増える

成長 積極的なM&Aを展開
当社とのシナジーが期待できる
複数の会社のM&Aを実施

目指す姿 当社と子会社の相補的な関係を構築し、
順次の売上拡大を実現する

現状の進捗

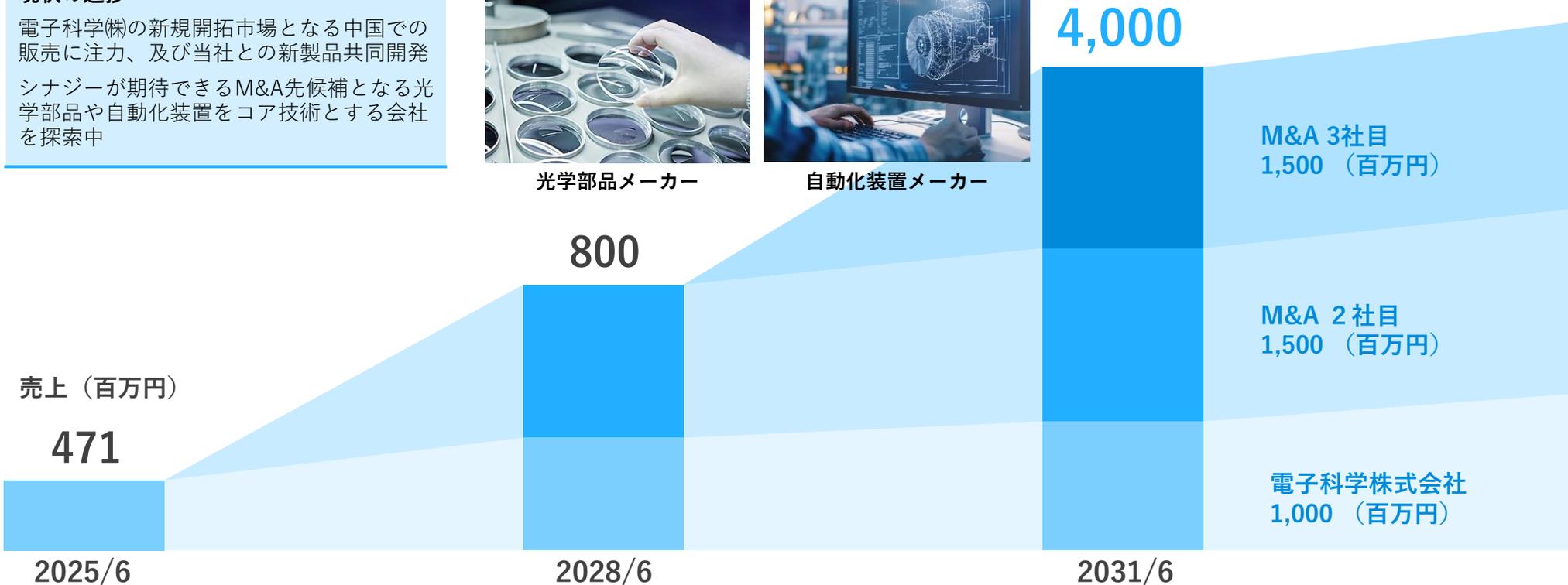
電子科学(株)の新規開拓市場となる中国での販売に注力、及び当社との新製品共同開発シナジーが期待できるM&A先候補となる光学部品や自動化装置をコア技術とする会社を探索中



光学部品メーカー

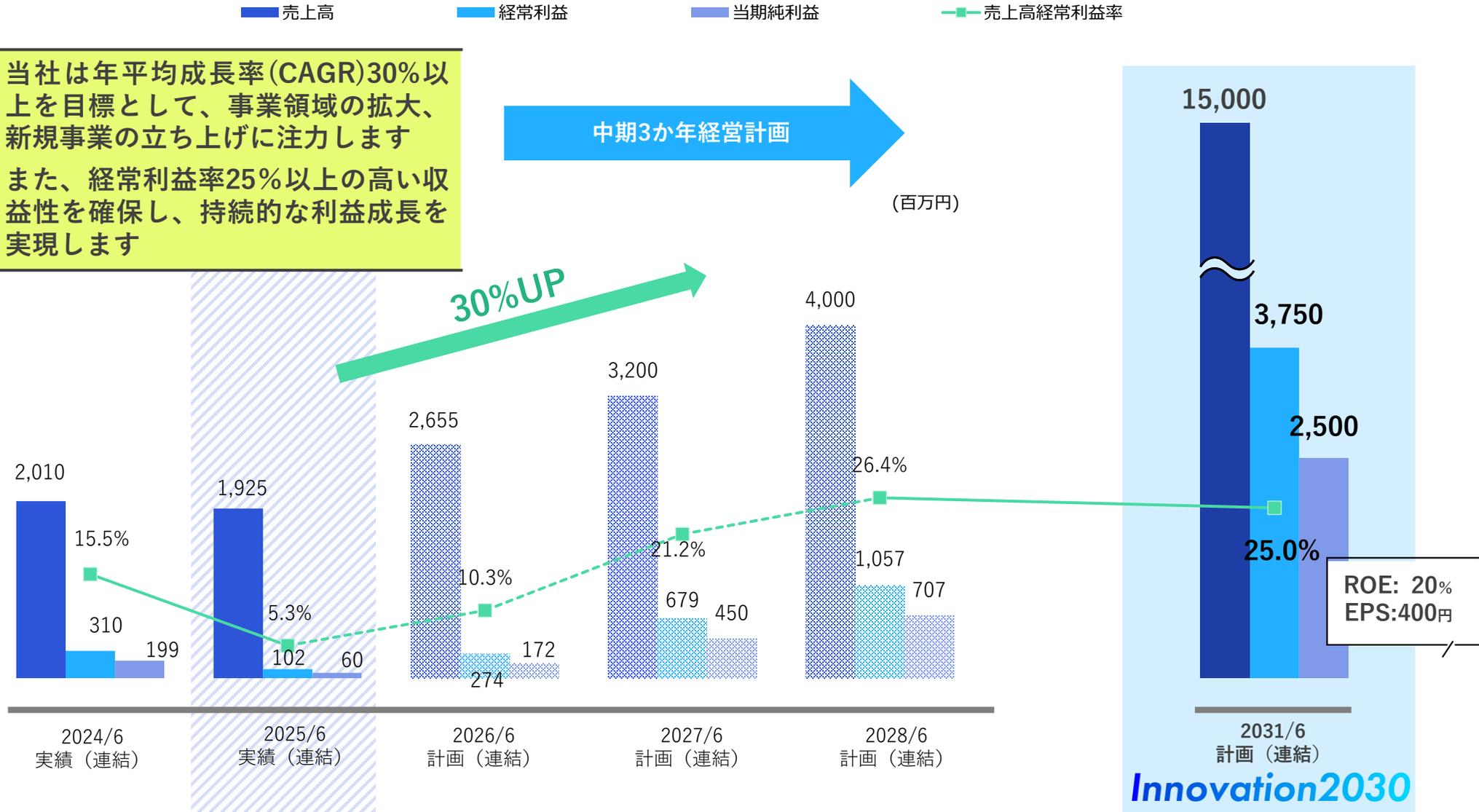


自動化装置メーカー



Innovation2030 までのマイルストーン

当社は年平均成長率(CAGR)30%以上を目標として、事業領域の拡大、新規事業の立ち上げに注力します
 また、経常利益率25%以上の高い収益性を確保し、持続的な利益成長を実現します



技術名	技術内容	事業化状況				
		研究開発	ユーザーサンプル テスト加工	スタンドアローン 装置販売	パイロットライン 装置販売	生産ライン 装置販売
プラズマCVM Plasma Chemical Vaporization Machining	技術の特徴： <ul style="list-style-type: none"> ・高密度のラジカルを利用した基材表面のエッチング加工 ・高効率で歪を生じない加工 ・厚み測定器と組み合わせたNC加工により、基板平坦性(TTV)向上 被加工物： Si及びSiO ₂ (水晶、ガラス)基板					
PAP Plasma Assisted Polishing ECO	技術の特徴： <ul style="list-style-type: none"> ・プラズマによる基材表面の活性化現象を利用した硬質材料の高速研磨加工 ・研磨剤、スラリーを用いないドライ & クリーン加工 被加工物： ダイヤモンド(単結晶、多結晶)					
ECMP Electro-Chemical Mechanical Polishing ECO	技術の特徴： <ul style="list-style-type: none"> ・基板表面の陽極酸化(軟質化)現象を利用した高速研磨加工 ・イオン伝導性パッドを用い、薬液(電解液)を使用しないクリーンな加工 被加工物： SiCウェハ					
CARE CAlyst Referred Etching ECO	技術の特徴： <ul style="list-style-type: none"> ・触媒機能を持つパッドによる原子スケールでの平坦化加工 ・加工変質層、ダメージ層のない原子レベルで欠陥のない表面を創出 ・媒体は純水のみで、研磨剤等のメディアが不要でクリーンな加工 被加工物： Si、水晶、サファイア、GaN、SiC、LT/LN等種々の半導体基板					

ご清聴ありがとうございました



JTEC CORPORATION

<https://www.j-tec.co.jp>

免責事項

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、内部・外部要因等により変動する可能性があります。当社は、本資料の情報の正確性、完全性及び実現性について、何ら表明及び保証するものではありません。



INDEX

05

会社紹介

1993

大阪コンピュータ株式会社との共同出資により、大阪府吹田市に株式会社ジェイテックを設立

1993

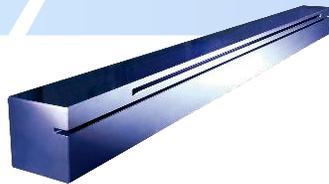


各種自動細胞培養装置の開発、製造及び販売を開始

2004

本社を神戸市中央区へ移転

2003



放射光用高精度形状ミラーの事業開始

2015

本社を茨木市彩都やまぶきへ移転

2016

株式会社ジェイテックコーポレーションに商号変更

2013

2016

大阪大学内に細胞培養センターを開設



2018

東京証券取引所マザーズ上場

2019

新社屋完成
本社棟・加工棟・計測棟



2020

東京証券取引所市場第一部への上場市場変更



次世代加工・研磨システムの事業開始
(第一弾：水晶振動子ウェハ加工システム)

2021

電子科学株式会社を子会社化



2022

東京証券取引所市場第一部から新市場区分「プライム市場」へ移行

2022

栃木生産技術センターを開設



2023

大阪大学と共同研究部門を設立

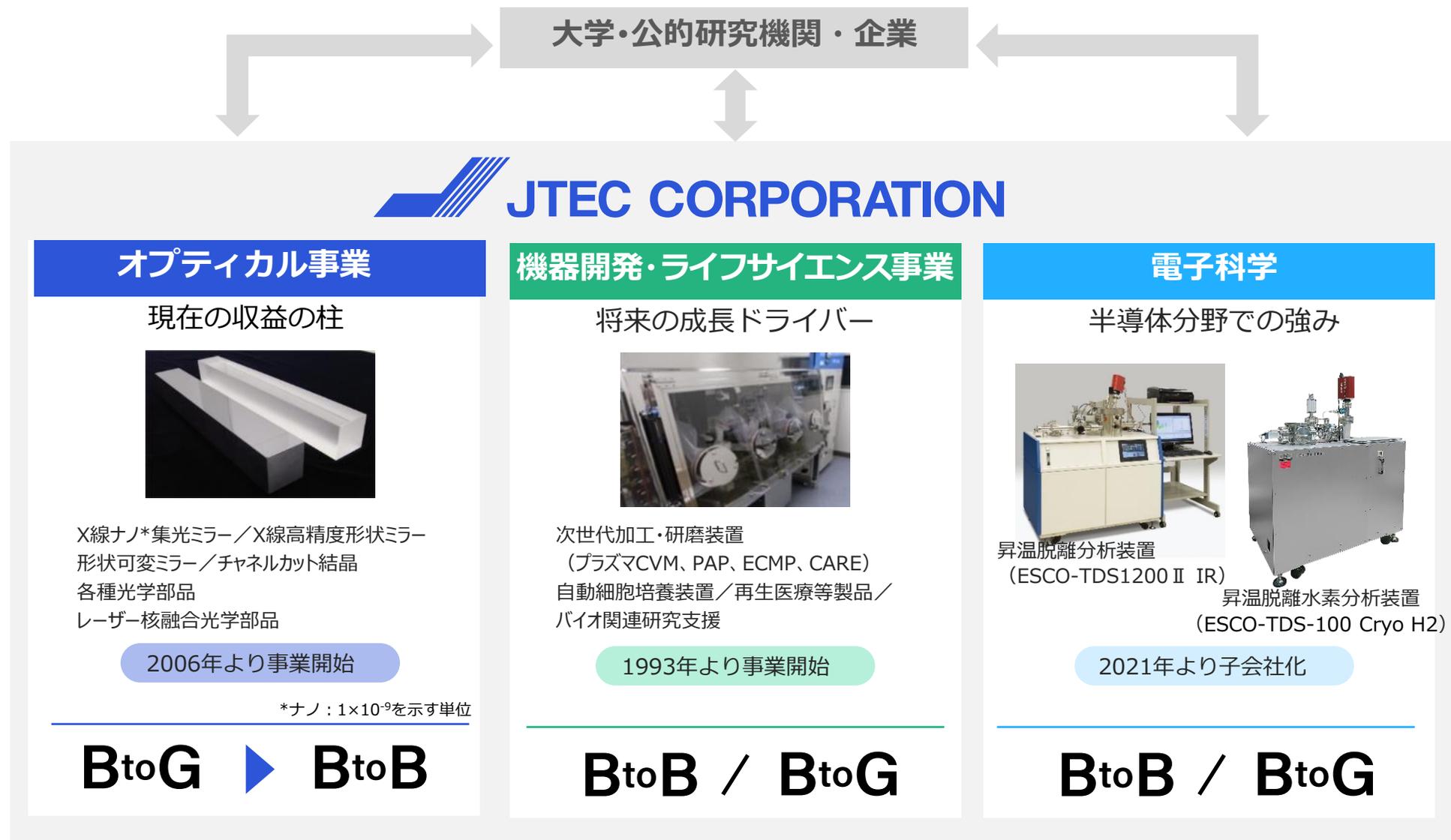
2023

2025

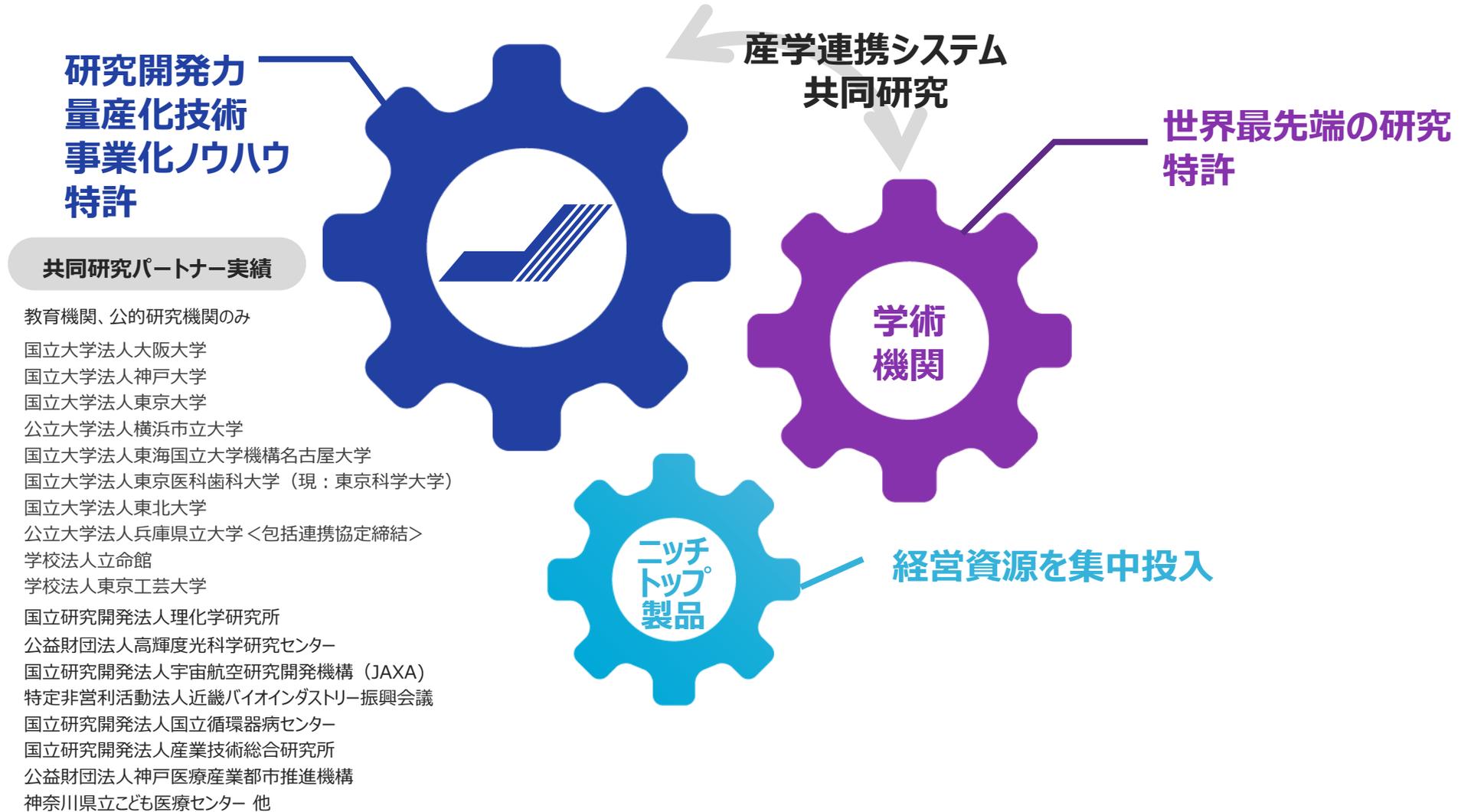
兵庫県立大学との包括連携協定締結

2025

「東証スタンダード」へ市場区分変更



- 世界最先端となるニッチトップ製品の量産化、事業化で付加価値創出

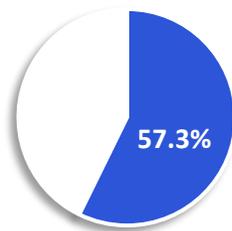


世界最先端技術を欲する顧客（企業、大学・研究機関）

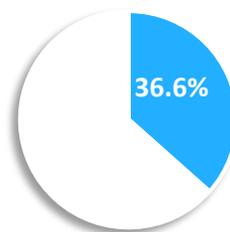
2018年度以降 4年間の売上数量と当社の超精密加工・計測技術を適用したミラーの数量

売上全数量	521 (本)
当社の技術を適用したミラーの本数	521
当社の技術を適用した高精度ミラーの本数	333

ジェイテックコーポレーションの
ミラー市場シェア



ミラー市場における
高精度ミラーの比率



ジェイテックコーポレーションの
高精度ミラー比率



ジェイテックコーポレーション市場調査結果

- 当社が把握している稼働中の放射光施設が世界に約50ヶ所あり、ビームライン数は平均約20本。各ビームラインで使用するミラー本数は通常7本程度なので、使われるミラーの総本数を約7000本と見積る。通常4年間で13%程度が新設またはリプレイスされるため、4年間のそれら総必要本数は約910本と考えられる。
- 高精度ミラーの総本数を333本と見積るのは、全世界の高精度ミラーの入札に参加している当社が全て落札していることを根拠としている。

高精度ミラーの定義

以下の4項目のいずれかを満たす

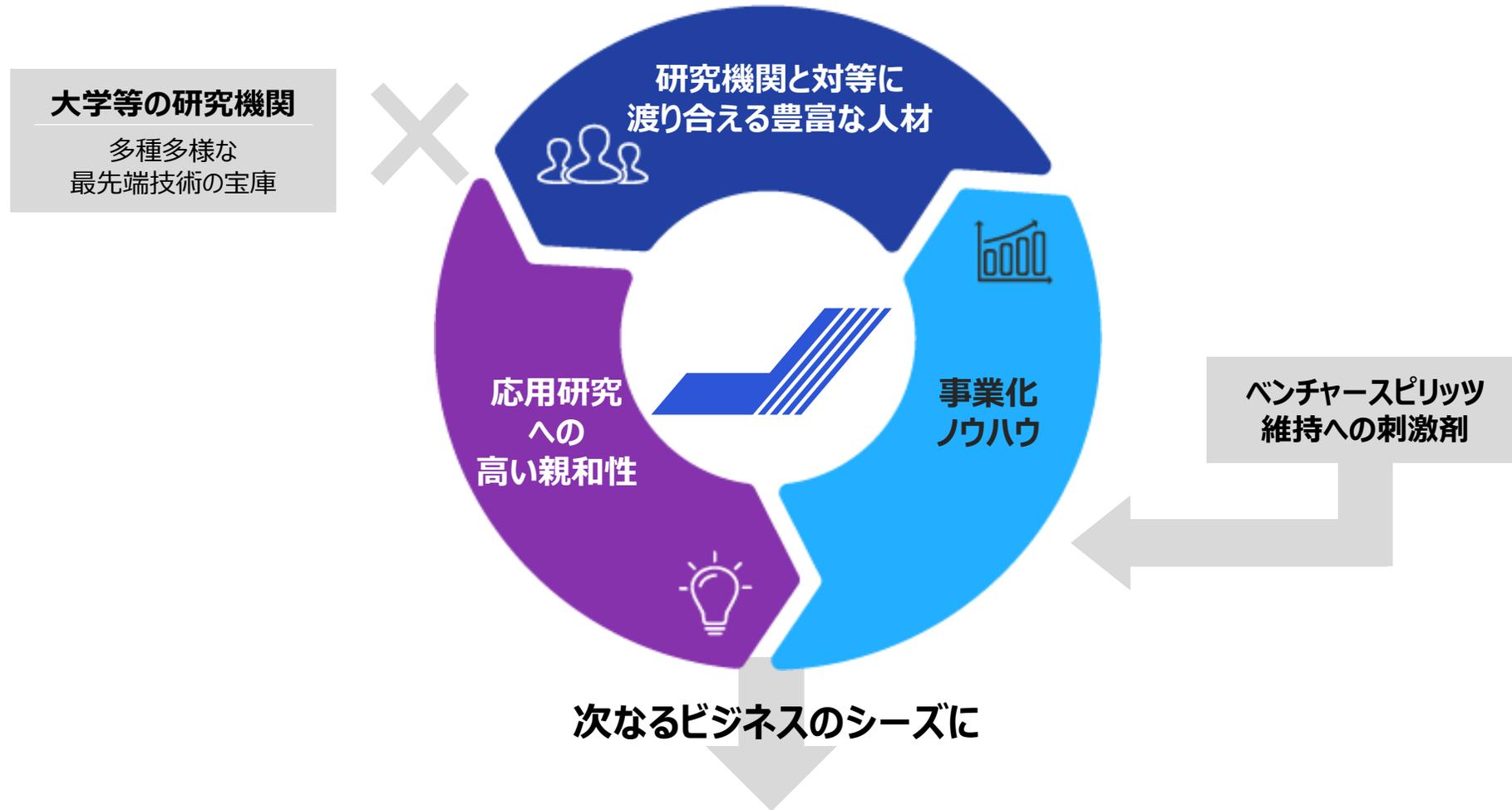
- 表面精度の仕様として「傾斜角誤差0.15 $\mu\text{rad rms}$ ※1 以下または形状誤差10 nm PV※1 以下」
- 表面粗さの仕様として「0.2 nm rms ※2 以下」
- 外観の仕様として「傷の幅が10 μm 以下」
- 表面性状の仕様として「加工変質層がなきこと」

※1 $\mu\text{rad rms}$ と nm PV はいずれも表面の凹凸の度合いを表す単位であり、前者は局所的な傾斜角の二乗平均を、後者は一番高いところと一番低いところの高低差を表す

※2 nm rms は表面微小領域における凹凸の度合い単位であり、高低差の二乗平均を表す

産学連携（強み）

- ビジネスアイデアと人材活性化に好影響
- アイデアを実用化できるビジネス感覚を活かし、新規事業へ展開



当社のビジネスは柔軟に変化

© 2025 JTEC CORPORATION All Rights Reserved.

競争的資金から大型プロジェクトへの展開

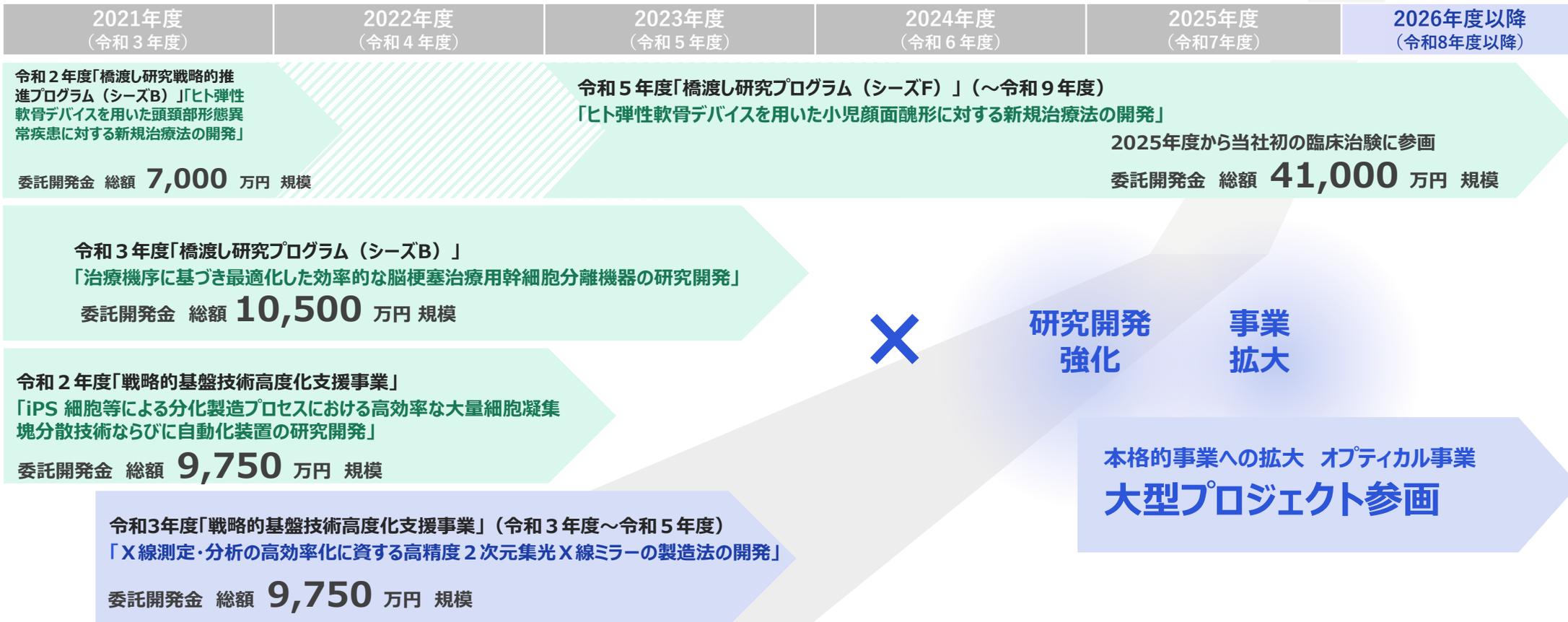
最近の受賞歴

経済産業省「2020年版グローバルニッチトップ企業100選」に選定

経済産業省、近畿経済産業局「関西ものづくり新撰2021」に当社の継代培養技術「J-iSS」が選定

発明協会「令和5年度全国発明表彰」の未来創造発明奨励賞に「特許第5070370号」（ナノ集光X線ミラー作製のための超精密測定法の発明）が選定

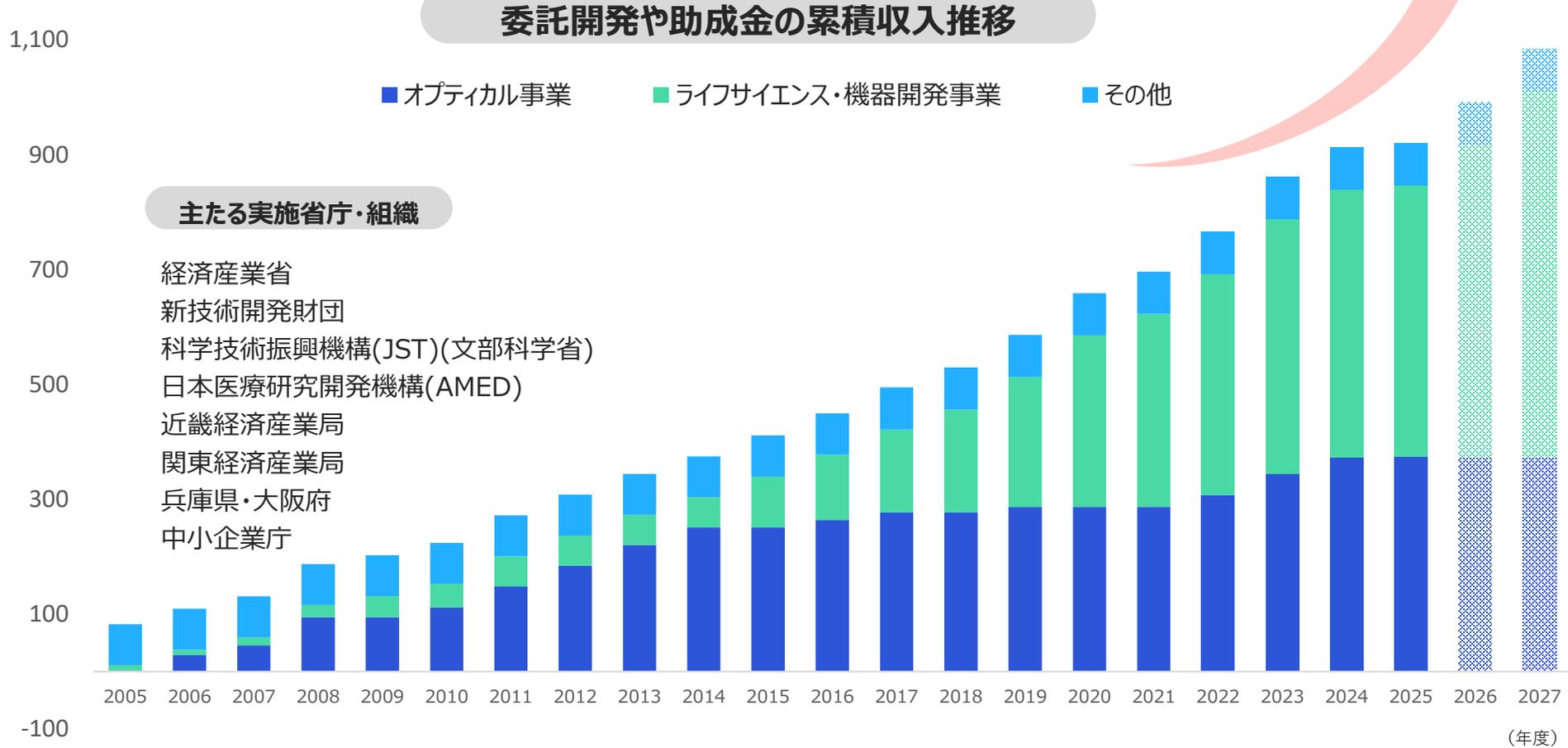
競争的資金の採択状況



評価される技術力

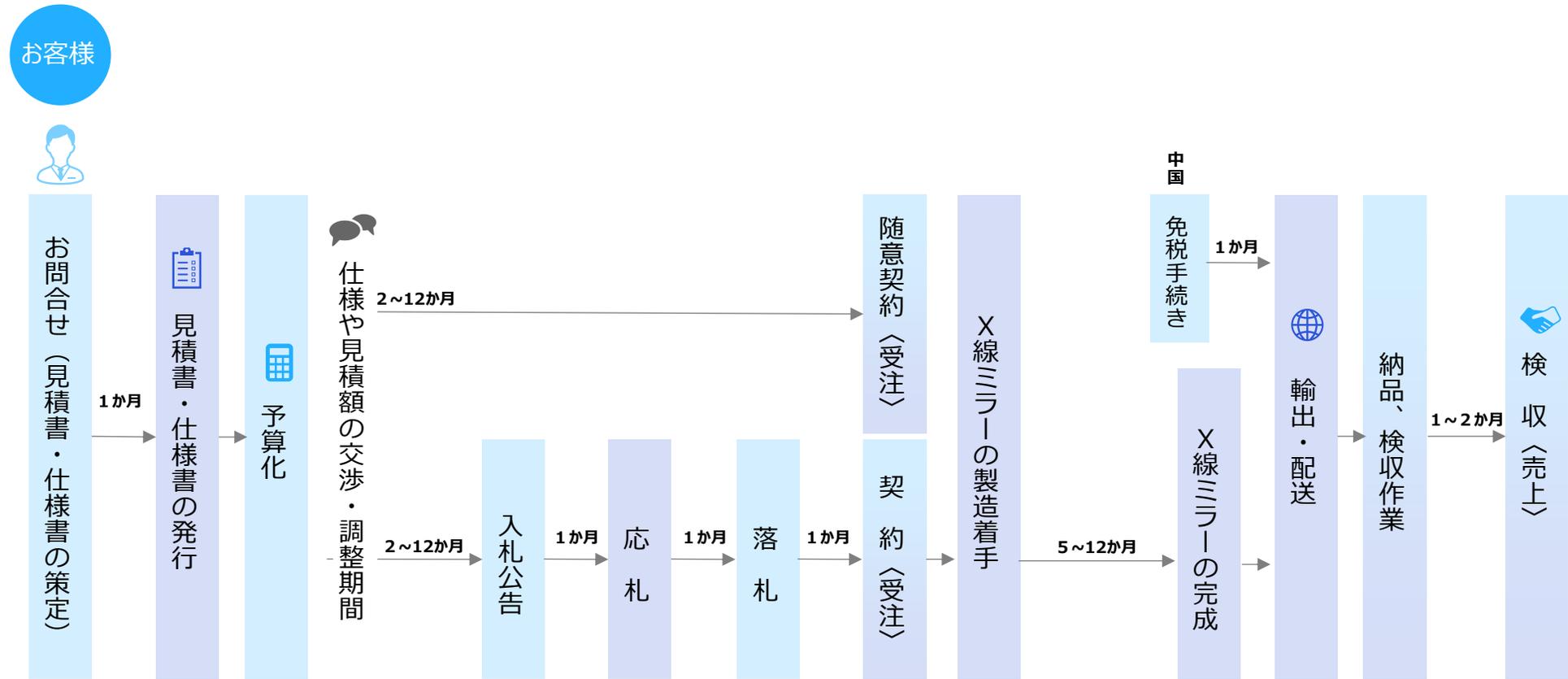
- 公的機関からの委託開発や助成金収入は累計で約9億円、評価主体は省庁、地方自治体、JST、AMED

(百万円)



プロジェクト規模全体では約20億円

X線ミラーの検収までの流れ(公的機関から受注した際の検収までのプロセス)



見積り作成から受注まで約 1 年

受注から検収まで約 1 年

会社概要

社名	株式会社ジェイテックコーポレーション / JTEC CORPORATION	
代表者	代表取締役社長 津村 尚史 (つむら たかし)	
本社住所	大阪府茨木市彩都やまがき2-5-38	
創業年月	1993年12月21日	
資本金	847,148千円 (2025年6月末時点: 連結)	
役員構成	代表取締役社長	津村 尚史
	取締役 営業部長	金岡 政彦
	取締役 管理部長	日谷 哲也
	取締役	辻岡 正憲
	社外取締役	川崎 望
	社外取締役	松見 芳男
	社外取締役	長谷川 功宏
	常勤監査役	綾部 剛
	社外監査役/公認会計士	梅田 浩章
	社外監査役/弁護士	片岡 牧
事業内容	<p>オプティカル事業：放射光用高精度形状ミラーの設計・製作及び販売</p> <p>ライフサイエンス・機器開発事業：医療/バイオ向け各種自動化システムの開発設計・製作及び販売</p>	
売上高	1,925,592千円 (2025年6月期: 連結)	
従業員数	75名 (2025年6月末時点: 連結)	
拠点	当社	<p>本社/開発センター：大阪府茨木市</p> <p>細胞培養センター：大阪府吹田市 (大阪大学内)</p> <p>栃木生産技術センター：栃木県那須塩原市</p>
	子会社	電子科学株式会社：東京都武蔵野市
総資産	3,688,131千円 (2025年6月末時点: 連結)	



代表取締役社長
津村 尚史



Disclaimer

本資料は、株式会社ジェイテックコーポレーションの業界動向及び事業内容について、株式会社ジェイテックコーポレーションによる現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。

これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性等の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性があります。

株式会社ジェイテックコーポレーションの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

本資料における将来展望に関する表明は、2025年8月13日現在において利用可能な情報に基づいて株式会社ジェイテックコーポレーションによりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映したものではありません。